

2004 年度 基本方針・事業計画

理事長 栗 田 浩

2004 年度＜スローガン＞

継承と変革 築こう新たなる 50 年の礎
～未来のまちとこどもたちのために～

＜基本方針＞

2004 年度（社）新潟青年会議所は創立 50 周年を迎えます。これまで多くの先輩諸兄が築き上げてこられた歴史を振り返るとともに、新たなる 50 年に向けスタートする年です。

継承すべき良き伝統や精神と時代を先取りし変革すべきことを峻別し、社会に貢献しつつ、メンバーに研鑽の場を提供する組織としての更なる飛躍を目指したいと思います。それが 2004 年創立 50 年という大いなる節目の年にやり遂げなければならぬことと認識しております。

JC の在り方と今後の進むべき道

会員の修練の場としての JC、世の中に奉仕する JC、友情を育む場としての JC、JC にはこの三つの側面があります。個々のメンバーにとってこれらは等しく重要であり、この三つの信条が有機的に結びついた事業展開が必要と考えます。

これまで新潟 JC は、多くの事業を実施し、“明るい豊かな社会づくり”に貢献してきました。そして、事業を通じて、メンバーは修練をつみ、友情を育んできました。それらの事業は、決して JC 単独でなしえたものではなく、関連する諸団体、行政などとのネットワークとパートナーシップがあったからこそ大きな成果をあげることができたものと思います。そのネットワークとパートナーシップは、先輩諸兄の地道な運動の積み重ねにより JC 運動が周囲から評価され、JC という組織が信頼されたからこそ築くことのできたものです。

過去に比べ現在では更に多くのまちづくり団体、NPO が存在するようになりました。価値観、ニーズが多様化し、かつ変化のスピードが速いこの現代において、世の中に対して価値ある事業を実施するには、それらの組織との連携が一層、重要になると考えます。

有効な事業の実施には、広い視野と複合的視点、柔軟な発想にもとづく企画力、そして計画を現実のものとする実行能力がこれまで以上に高いレベルで必要となっております。まちづくりに関わる様々な団体が各々の特徴を生かしながら協力しあうことで、世の中のニーズに応えることができるのではないのでしょうか。

そのために我々は JC のアイデンティを明確にする必要があります。自分達の強み、弱みを十分に把握した上で、更にその活動を外部に開き、50 年の経験を活かしながら、これま

で築き上げてきたネットワークを活用するならば、多くのまちづくり団体と新たなパートナーシップを結び、より有益なネットワークが構築できると考えます。

積極的に外部の団体と関わる事で、我々の事業はより大きな広がりと深みを持つことができるでしょう。それは自己研鑽のためのより大きな機会を得ることに繋がり、さらに友情を深めることになるかと確信しております。

地域社会への貢献

現在我々が住むまち“にいがた”は 基本的な都心インフラが整備され、地方中核都市のインフラとしては全国的にみても高いレベルにあります。住民からは“住みやすい”との高い評価はあるものの都市としての求心力が弱く、人口増加率、経済成長率などで伸び悩み、ハードインフラを十分に活用できていないのが現状ではないでしょうか。今後、日本海側の拠点都市として求心力を高め、地域経済を活性化するには、ハードにみあうソフト基盤の整備と外部に対して明確なアイデンティティを示すことが必要と考えます。

“にいがた”には、多くの独自のものがあります。しかしそれを外部に PR し、産業やまちの活性化にうまく結びついていないのが現状ではないでしょうか。新潟 JC はこれまでまちづくりに関して多くの研究と外部への提言を実施してきました。“にいがた”が外部に示すべきアイデンティティは必ずその中にあります。我々はそれを抽出し、わかりやすく表現することが必要です。それがまちを活気付け、経済を活性化することに繋がると考えます。

アイデンティティが明確になることで、まちづくりの方向性が確かなものとなります。それによって我々の運動の方向性、個々の事業の意味をより鮮明にすることができます。そして、浮かび上がった“にいがた”のアイデンティティから、将来のまちづくりに対するイメージを作り出し、それを JC の枠を越え、多くの市民と共有できるようにすることが重要です。

メンバー一丸となって

50 年という節目の年にあたり、改めて JC 運動の原点を見つめ直しましょう。恐れず何事にも積極的に挑戦し、JC 運動を自らの修練の場として活かしていこうという精神を思い起こしましょう。そして様々な事業を通じて、思いを共有し、一体感を感じることでできる組織基盤、組織文化をより強固にしていきたいと考えています。それが新たな 50 年の礎になるものと確信しております。新潟 JC が期待される役割を果たすことで地域に貢献し、その結果としてメンバー全員が強い一体感を感じ、そして達成の喜びを分かち合うことができるような一年にしたいと思います。その喜びが次なるステップへのエネルギーとなり、かつそこで各自が得た経験が次の JC 運動のみならず、地域や所属する会社へのフィードバックになることでしょう。我々にはメンバー同士お互いに助け合うという友情の基盤があ

ります。50 周年というまたとない機会をチャンスととらえ、メンバーの皆さんと共に新しいことに挑戦していきたいと思います。

<事業計画>

- (1) 創立 50 周年記念式典及び記念事業の実施
- (2) “ にいがた ” のアイデンティティ再構築
- (3) 上信越トライネット推進協議会への積極的参加と支援
- (4) JC 運動展開の新たな仕組み作りと LOM 運営改革
- (5) 台湾板橋国際青年商會と姉妹 JC の締結